

平成31年度 哲学科 AO 入学試験 第1次選考 レポート課題

今までにみなさんは、「ああ、自由になりたいな」と思ったことがあるでしょうか。もしかすると、親の干渉から自由になりたい、受験勉強の重圧から自由になりたい、あるいは、厳しい校則から自由になりたいなどと、思ったことがあるかもしれません。

このような場合、自由であるとは、他人や社会からの干渉や強制を免れている状態だ、ということになりそうです。たしかに、これは、「自由」の一つの重要な意味であるように思えます。実際、最も基本的なことを言えば、もし自分の身体がいわれなく拘束されてしまっているとしたら、どうでしょうか。それでは自由も何もあったものではないよ、と感じられることでしょう。さらには、外部からの干渉のせいで、自分の意見を主張できないとか、自分の好きなことを学べないといったことも、あってはならないでしょう。外部からの束縛や強制を免れているという意味での自由は、とても貴重なものです。

けれども、外部からの強制を免れていれば、もうそれで十分なのでしょうか。自由を考える際によく引き合いに出される言葉として、「自由気まま」があります。「気まま」、すなわち、周りに気兼ねせず、自分の思う通りに振る舞うこと、これが自由だということでしょうか。極端な例を挙げると、試験勉強よりもゲームのほうが楽しければ、「好きなだけ」ゲームをやり続ける。あるいは、誰かの行為が自分の気に障ったら、その相手に対して「思うがままに」罵詈雑言を浴びせる。たしかに、このときには外部からの強制は働いていません。しかし、そのような振る舞いは、自由とはどこか違うように思えます。どこが違うのでしょうか。一つ言えるのは、その人が自由なように見えて、実は、自分の欲求や感情に支配され、その虜になってしまっているということです。その人は、「内部」の欲求や感情に束縛されており、その状態ではやはり不自由なのではないでしょうか。

それでは、干渉や強制が内部からも外部からもないことが自由だということでしょうか。話を蒸し返すようですが、ここで一つ疑問が生じます。束縛がないことが本当に自由なことなのか、と。例えば、ダンスに打ち込んでいる若者がいるとしましょう。その人は、たとえつまらないものであっても、基礎トレーニングを欠かさずに行います。振り付けの難易度が高くても、それを身につけるためにこつこつと練習を重ねます。甘い食べ物が大好きだとしても、ダンスのために自制します。このように、その人は、外部から強制されているわけでもないのに、自分で自分に厳しい制約を課しています。このとき、私たちは、「この人はいろいろと不自由だな」と思うかもしれません。しかしその一方で、この人こそが本当に自由なのだとも言いたくなります。なぜなら、この若者は自分で自分を律している、すなわち、自分が自分の主人たりえているのですから。そうすると、自律という意味での自由もあるのではないのでしょうか。

以上、自由について考えてきました。自由とは何かという問いかけは、さまざまな考察を喚起することでしょう。あなたならどう考えるのでしょうか。自由とは何かという問題について、あなたの意見を1,600字以内で述べなさい。